

20110520 新しい学びプロジェクト
平成23年度第1回研究推進員研修会

協調学習における 生徒の学びをどう見るか

大学発教育支援コンソーシアム推進機構
(CoREF)

「協調学習」って？

一言で言うと…

ひとりひとりの「見方や考え
方の多様性」

を活かす学習

協調学習のプロセス

→多様性をリソースに
一人ひとりが伸びる！

- まずは一人ひとりが自分の考えを持つ
- 自分の考えを話してみても、相手にわかるように変えてゆく
- 人の説明も取り入れて、一人ひとりが自分なりの理解を深める

協調学習の評価のポイント

授業における

一人ひとりの子どもの

学習への参加と理解の変化

学習は、多様な参加の仕方があってはじめて深まる

- 各人に「得意な参加の仕方」がある。
- 理解が深まるカギは、自然に発生する「聴き役」と「課題遂行役」の役割交代。
(発見はむしろ「聴き役」から出てくることも多い)
- わからない⇒わかっていく⇒わかる…
話し合いが活発な局面と低調な局面が。

「参加」を評価するには

- 役割交代は自然に起こっているか？
- その子の「得意な参加の仕方」は？
- グループはいまどの局面か？

⇒授業中の子どもたちの活動を注意深く
見ておくこと。

1時間で全員をよく見るのは当然難しい。
まずは特に気になる子から。
録音機材を使うのも1つの方法です。

協調学習を通して期待する変化

- 授業のはじめに持っている考えが,
- 授業中に資料, 活動や人の話から得た知識を統合して変化し,
- 新しいストーリーとして表出できるようになる

授業のはじめに持っている考え？

- 児童・生徒は，授業を受ける前にも，一人ひとりが主題について自分なりの考えを持っている（授業はその考えを変化させる試み）

Cf.) 「消化と吸収」の授業

「デンプンの消化吸収のしくみを説明しよう」 生徒の考えの変化の例

ササキさん

授業前

ご飯など、デンプンを含んでいるものを食べて、胃で消化される。大腸など、いろんなところにまわっていくうちにどこかで吸収されて体内に取り入れられる。

授業後

食べ物を口でかんでいる間にだ液がデンプンとブドウ糖に変えます。このはたらきをするのを消化液といいます。ブドウ糖は大切な栄養素です。色は同じでも大きさが違います。デンプンは大きいから水にとけないけど、ブドウ糖は小さいので水にとけます。ブドウ糖は主に小腸で吸収されます。小さい栄養素だけが小腸の粘膜を通過し、毛細血管に入ることができる。

「デンプンの消化吸収のしくみを説明しよう」 生徒の考えの変化の例

ウメダさん

授業前

デンプンは、口から入って食道を通り、その次の胃の胃液で少し溶かされ吸収されると思います。そして、吸収されたものは、血液によって運び出されると思います。

授業後

吸収は主に小腸で行うけれど、デンプンのままでは大きすぎて吸収できないので、だ液やすい液から出るアミラーゼで糖にして、小腸の内側の表面から出るマルターゼでブドウ糖に変えて吸収するということがわかりました。

一人ひとりの変化はどう見る？

授業の「柱となる課題」を設定し、
授業の前後でその課題についての生徒一人ひとりの答えの変化をみる

⇒柱となる課題の設定が授業デザイン
のカギ

柱となる課題の設定

まずは、授業の最後に、どのような課題に対してどのようなストーリー(自分なりの説明)を語れて(書けて)ほしいのか

⇒授業に対する先生自身のゴールイメージが必要！

ゴールイメージ

「～の単元の授業」としてでなく、

「～をわかってほしい授業」

より正確に言うと、

「～という知識を使って…について---と
いう説明が出来るようになってほしい授業」

として、授業をデザイン

変化を端的に表すのが ワークノートの記述

- 授業の前後における記述の量はどう変わる？
- 目指すストーリーにおけるキーワードが出ているか？
- それぞれの資料や活動から得た情報を使えているか？

目指すストーリーが 出てこないとき

- ゴールの方向を向いていれば(キーワードに気づけている, 部品を使えている etc.),
それは前進
 - ゴールの設定は妥当だったのか?
- ⇒子どもの**参加**と**変化**の評価を
基に授業をデザインし直す。

まとめ：

子どもの学習を中心にした 授業における評価

- 「わかり方は多様」なことを前提に
- 一人ひとりの参加と変化を評価する
- 評価には先生自身のゴールが必要
- 評価は「ゴール&授業デザイン」の再検討と表裏一体

⇒このサイクルを回し続けるのが、
協調学習の授業づくり！

実践の共有と吟味

研究推進員の間で教室の実践結果を共有し、吟味しあうことは、

色々な状況で協調学習の授業づくりを目指す先生たち全員が、自分なりに協調学習について理解を深め、次の実践の開発を助けることにつながる。

⇒協調学習の継続的な授業改善のネットワークへ

共有と吟味のために、

- ビデオで授業全体の様子を記録
- ICレコーダーなどでグループの話し合いを記録

⇒教員，研究者，コンテンツの専門家などの多様な視点から授業中の子どもたちの活動を注意深く観察したい